

とがむずかしくなったので、年度当初にあたって整理規程の作成を計画し、受入、分類、目録、排列の諸規程の作成にとりかかった。

一方県内の学校図書館の発展と、公民館図書部の充実によって、整理も着々行なわれているが、まだ独自の方法でやっているとか、整理の方法がわからないので、図書を買っても整理に迷っているところもある。そのため、日本十進分類表新訂7版が完成したのを機会に、分類と目録の講習会を36年10月25、26日の二日間、国立国会図書館司書三塚俊武、学習院図書館事務長関野真吉の両氏を講師に招いて、郡山市図書館において開催した。また、図書館実務講習会を勿来市と原町市において開催する予定であったが37年度にもち越された。

1 図書館資料の収集

(1) 館内奉仕用と館外奉仕用

県立図書館には資料センターとしてはたらきと、県内全地域の住民に対して読書の機会を与えるというはたらきの二つが考えられる。当館においては、このことを建前としてすべての図書館活動がなされている一つは、基本図書の充実と郷土資料、行政資料等の収集によって、インフォメーションサービスと、研究、調査の場を提供し、二つには、分館活動、移動図書館、青少年巡回文庫などによって県民に読書の機会を与え読書会の育成と文化事業を行なっている。これらはすべて図書館資料が基盤となるもので、資料の収集が、図書館において重要な位置を占めることはいうまでもない。

それで当館においては、図書館資料を館内奉仕用と館外奉仕用とに分けている。館内奉仕用のものは、本館備えつけとして、文献や参考図書の基本図書、郷土資料等に重点をおいている。本年度は蔵書目録の産業篇を刊行することになっていたもので、特に産業関係の資料の充実につとめた。館外奉仕用は移動図書館、青少年巡回文庫および分館に配本するもので、市内各層から10名の図書選定委員を委嘱し、毎月1回図書選定委員会を開き、市内の書店から持ち込まれた新刊書から、青少年、婦人など一般の人達を対象としたものを選定してもらっている。

受入種別および分類別にみた本年度の年間増加冊数は別表のとおりである。

昭和36年度分類別年間増加冊数

	購入	寄贈	編入	計
館内奉仕用				
総記	154	142	264	560
哲学	101	45	2	148
歴史	327	88	9	424

社会科学	472	340	134	946
自然科学	96	72	24	192
工学工業	108	62	44	214
産 業	155	428	32	615
芸 術	124	24	127	275
語 学	74	3	6	83
文 学	462	39	49	550
児 童	218	3		221
小 計	2,291	1,246	691	4,228
館外奉仕用	3,578	44		3,622
計	5,869	1,290	691	7,850
レコード	41			41

(2) 郷土資料と地方行政資料

本年度の努力事項の一つとして郷土資料および地方行政資料の積極的な収集をかかげた。これらの資料を収集するにあたっては、まず一般県民に対して、郷土資料および地方行政資料が将来貴重な文化遺産となることを認識させるために、資料展を開催、職員の研修県内地方史研究動向の調査、第7回地方史研究講習会の開催等の事業を押し進めながら、単に寄贈されてくる資料を待つだけでなく、調査活動をもとにして、積極的な収集活動を展開してきた。

① 郷土資料

本年度、郷土資料として受入整理したものは、下表のとおりである。

昭和36年度受入郷土資料冊数

月 分 類	36	5	6	7	8	9	10	11	12	37	2	3	計
	4									1			
総記	5		1	2	23			4		8			43
哲学					6								6
歴史	9		1	8	36	1	4	1	2	3	3	1	69
社会科学	50	15	17	14	42	10	6	14	32	6	9	5	220
自然科学	3		1		2		1			2			9
工学	4	2	1		5	1	4		3		1		21
産業	42	10	7	1	12	1	9	6	10	2	23	4	127
芸術			2		1					1	1	1	6
語学	1												1
文学	5		1		2		2			5	1	2	18
計	119	29	29	25	129	13	26	25	47	27	38	13	520

この中で、寄贈された資料と、逐次刊行物の種類は下表のとおりである。